

キッズ陶芸教室 実施しました！

昨年度より新たに始めたキッズ陶芸。今年度も引き続き開催しました。日時はジュニア陶芸を開催した一週間後の令和5年4月15日土曜日です。

昨年と同様に午前と午後に分けそれぞれ半日単位で参加していただきました。

制作するものは、保護者など家族のサポートを受けながらオリジナルの大皿です。まず、直径30cmほどの円盤状の粘土(材質は、なみこし粘土のみ)に、なみこし粘土と赤土粘土を1：2の割合で混ぜ合わせた粘土で模様や図柄を貼り付け埋め込んでいきます。粘土を1：2の割合で混ぜ合わせるのは、貼り付け焼き上げるときに剥がれたり、その部分からひび割れたりするのを防ぐ意味合いがあります。

大人ならさて、どのような図柄にと悩むところですが、そこは思い切りのいいキッズ達。粘土を紐状にしたり、平らにしたりと、さながら粘土細工づくりの感覚でした。なかには、事前に下書きをして図案化したものやイメージ図を持参されてもいました。その後、貼り合わせた粘土を円盤状の土台に埋め込むために、厚さ7mmのガイドバーを横に置き、のし棒で上から押しつけるように転がしながら粘土を埋め込みます。この作業は、やはりキッズでは難しく、保護者や所員のサポートを受けながら粘土に埋め込むことができました。絵や文字など思い思いのものができあがり、何を作ったのか尋ねてその答えに納得。キッズ達の想像力のたくましさに所員一同感心していました。

続いて、できあがった円盤状の粘土をお皿にするために、ボール鉢を裏返してその上にかぶせてかたどります。ここは、大人の手を借りて、そっとボール鉢にかぶせました。この段階で余分なところに力が入り形を崩したり、薄くなったり、かぶせて再度やり直すときにいびつになったりするので、あくまで大人が慎重に行いキッズ達はよこでウキウキわくわく。仕上げに、自分の手で太鼓をたたくようにして型取り作業に参加。自らも関わろうとしていた姿に微笑ましさを感じました。

最後に、円盤状の粘土からお皿にかたどった粘土を、自然の家で焼き上げて完成。

昨年度からの継続的な試みとしてキッズに焦点化した陶芸を打ち出したところ問い合わせの段階でもかなりの方が興味を持っておられることがわかりました。人数の都合で、惜しくもご参加いただけなかった方々もおられ申し訳なく感じています。次回の検討課題として考慮したいとともに、大変ありがたく思っています。

今後も、子どもたちを含めて幅広い年代の方々が、荒神山自然の家に来て、たく

さんの友だちと楽しい時間を過ごしたり、新しい出会いがあったり、趣味や特技を伸ばしたりできるよう楽しい企画を考えてお待ちしております。また、陶芸教室もさまざまな趣向を凝らした企画を展開するなど新しいジャンルにも開拓していきたいと考えております。

ぜひ荒神山自然の家自主事業においでください。皆様のおいでをスタッフ一同お待ちしております。

午前の部の様子





午後の部の様子

